

「知識・理解」と「思考・判断」を育てる発問例

ごみ問題を例にして

要録の学力		レベル	必要なプロセスの説明	内容	発問例
知識	1	記憶する	記憶だけが必要。 情報を思い出す。	暗記力(事実や言葉ややり方や分類などを知っている能力。	どんなごみが落ちていましたか？ ごみはどこにありましたか？ ごみの量はどれ位ですか？
	2	理解する	言い換えが必要。 情報の言い換えと比較。	内容を解釈したり、言い換えたり、説明したり、推し量ったりする能力。	ごみは、なぜそこに落ちていたと思いますか？ ごみが増えると、どんな問題が起きますか？ 過去と比べて、どれ位増えてきていますか？
思考	3	応用する	知識を新しい状況や体験に応用することが必要。	知識を一つの状況から別の状況に移すことができる能力。	校庭のごみ以外の環境問題の例をあげられますか？ ごみを放置するとどうなると、地域社会はどのようにになると考えられますか？
	4	分析する	動機や原因、そして証拠を明らかにしたり、結果を導き出すために情報を使うことが必要。	全体の中の部分を見つけたり、区分けしたりできる能力。 多角的な視点で公正に情報を扱うことができる能力。	校庭にごみが散乱する原因はなんだと思いますか？
判断	5	評価する	意味をつくり出したり、判断をしたり、意見を提示するために情報を使いこなすことが必要。	基準を使って情報の価値や使い道を判断できる能力。 他者の気持ちに共感できる能力。	校庭にごみが落ちていていいと思いますか？ ごみが落ちているとどんな気持ちになりますか？
	6	創造する	予想を立てたり、問題を解決するために、情報をまとめることが必要。	部分を組み合わせで統一された全体を作り出せる能力。	校庭のごみの散乱を避けるにはどうしたらよいと思いますか？ ごみが出た過去の経験から、ごみを出さない取り組み方法を提案して下さい。

「思考の6段階」(ベンジャミン・ブルーム)を軸に、生徒指導要録の学力を整理した。

参考文献

ジェニ・ウィルソン&リスリー・ウィング・ジャン、吉田新一郎訳『「考える力」はこうしてつける』新評論 2004年p.95
石井英真「高次の学力の質を捉える枠組み」田中耕治『「活用」を促進する評価と授業の探究』京都大学大学院 2013年 p.14